

意見交換

(事前質問・意見・要望の項目に沿って)

Q3) 下市田区は全体的に転入者が多く世帯数が増えています。6区(出砂原)だけは例外で、転入者が少ない中で高齢化が進行して自治組織の運営も困難を増し、来年度から常会を大幅に再編成するとともに、自治会役員も減らすことになっています。出砂原地区についておうかがいします。

① 下市田区の中で出砂原だけこのような状況になっているのは、なぜだと思えますか。何か打開策がないでしょうか。

② 竜神大橋が開通すると明神橋西ラウンドアバウトの混雑は緩和される見込みですが、同時に観光客の車の通過も減少します。出砂原に個性的で魅力的な店や見所がいくつかあれば、観光客が豊丘の「道の駅」で買い物するついでに立ち寄りと思えますが、そういう店や見所を増やす方策はないでしょうか。

北沢幸保議員

①市田駅が出来てから出砂原の集落が形成され、商業の中心地として発展してきました。その後、車社会となり、国道沿線に大型商業施設が進出して、出砂原の商店のお客は減り、後継者も他の職業に就いて、住宅も仕事に都合の良い場所に移っていく傾向がうかがえます。

打開策は、住んでいる人たちが出砂原の住みやすさ（駅、病院、金融機関、国道、大型店に近いこと等）をアピールしていくこと。空家や空店舗をリノベーションして活用すること。空家に移入者や外国人労働者等を受け入れること。開かれた自治会運営をすることなど考えてみました。

北沢幸保議員

②アントレプレナーで起業して成功している飲食店が下市田にあります。昔の考え方ではお客さんが来るとは思えない場所なのに、どうしてかなと思うところです。このような営業方法の発想は大変参考になる事例だと思います。

車社会とSNSの普及を意識して、駐車場を確保して、出砂原に行かなければ「食べられない、買えない、見ることができない」等の店や施設はどうだろうかと思えます（例：チョウザメやキャビア料理、市田柿や加工製品、地元の食材や果物にこだわった店、マツザワや旭松等の関連の店など）商工会が音頭を取って起業のための指導援助を行うべきです。

三浦喜久夫議員

①出砂原だけ、なぜなのかはわからないが、町内地区の先進であって、他の自治会も将来同じになるのかもしれないと感じます。

2区などとの合併は？ 住宅地として基盤整備を行い、転入者を増やすことは？ 国道・県道の整備は？

②朝霧道路ができたので、市田駅から下市田駅までを中心に、南北に展開していったらどうだったか？

見所を増やす方策は見当たりません。

小川修議員

①出砂原だけの問題ではなく下市田各区に波及しようとしています。特に後継者が都会へ出て行って故郷へ戻らない例はどこにもあると思いますが、その辺りについてはどうでしょうか？

②竜神大橋は完成してはいませんが、その見通しを立て、町では山吹下河原の開発を進めていると思います。何か新しい案があれば頂いて参考にさせていただきます。

小沢恵子議員

- ①人口減少・少子高齢化は出砂原地区だけの課題ではないように感じています。
- ②令和6年に出砂原地区の方と町が行ったワークショップでは、「道路の拡幅と片側に歩道が欲しい」という要望があったとうかがっています。

意見交換

(事前質問・意見・要望の項目に沿って)

Q4) 座光寺から夕映え道路に直結する新しい橋の建設が始まり、近い将来、この橋から国道153号へのアクセスが重要な問題になります。武陵地交差点の改良は現在まったく見通しが立たず、国道4車線化・バイパス化などと併せて考える必要があると思いますが、どのように考えますか。

北沢幸保議員

エスバードと下市田を結ぶ橋ができれば、武陵地交差点の交通量は格段に増えると思います。エスバードは南信州広域連合が関わる施設です。この施設へのアクセスを改良するために橋が架けられます（高森町が要求したものではありません）。しかし、国道へのアクセスも改良しなければ橋を架けた意味がありません。町は南信州広域連合や飯田市に訴えて一緒に武陵地交差点の改良を運動していくべきです。5区や下市田区も粘り強く訴えていく必要があると思います。

4車線化・バイパス化などは、運動する中で見えてくるのではないのでしょうか。

三浦喜久夫議員

地域の人たちの理解が優先。私の考えは、リニア時代に向け国道4車線化は必要。国道をバイパス化したら現国道は生活道路となり活性化はないと思います。

小川修議員

原則としては現道拡幅だと思いましたが、結論が出ないようなら他の案があれば参考にさせていただきます。

最近天竜川を渡る案も浮上しているうわさもあり、まだ先と思わず、皆さんと一緒に知恵を絞らなければならないと思います。

小沢恵子議員

国道4車線化については、まず、
国道をどこに通すのか地域の話し合
いが必要かと思います。

沿線4町村でつくる期成同盟会の経過

令和元年7月

高森、松川、中川、飯島の4町村で「国道153号伊那バレー・リニア北バイパス改良促進期成同盟会」を設立。目的は、高森町下市田～飯島町本郷（延長約18km）の改良整備促進を図る。

令和5年11月

県に要望書を提出

- 1 安定的な道路財源の確保と道路事業費の大幅な拡大
- 2 早期事業化に向けた調査の推進
- 3 自動運転車両専用レーンを有した規格での道路計画
- 4 一般国道153号全線の道路法に基づく指定区間編入

国道153号の改良について区民の意見 (令和5年度まちづくり懇談会から)

- ・今のものを広めると交通事故がとてども増えると思う(1区)
- ・河原に通すと農地の面積が減ってしまう。現道拡幅の方向で進めてほしい(2区)
- ・下市田工業団地から山吹まで天竜川沿いに4車線にしてはどうか(6区)